

住宅に墜落し炎を上げる小型機(中央) 26日午前、東京都調布市(住民提供)



事故のイメージ

午前11時ごろ
住宅地に墜落



する声も。「不時着場所を探していたのでは」との分析も聞かれた。
元日航機長で航空評論家

空襲の惨劇、語り継ぐ

小金井駅で慰霊祭

とちぎ
戦後70年

安も見せつつ、鮮血が駅前を真つ赤に染めた惨劇を語り継ぎ、平和を守る決意を新たにしました。

太平洋戦争末期の1945年、旧国鉄(現JR)小金井駅周辺で米軍機の銃撃により31人以上が犠牲になった「小金井空襲」の慰霊祭が26日、同駅西口で営まれた。戦後70年が過ぎ、関係者の高齢化から「区切り」とするこ

とも検討されるようになった。英二実行委員長(91)は「軍事施設が一つもなかった供養。参列者は国の安全保障政策の転換に不

ズーム

小井空襲 1945年7月28日正午ごろ、米軍機3機が旧国鉄(現JR)小金井駅に向かう東北本線の上り列車に機銃掃射。列車が駅に到着した後も、逃げ出した乗客や、戦没者の遺骨を出迎えるために集まっていた人々を狙って銃撃した。31人以上が犠牲となり、70~80人ほどが負傷したとされる。

体験者ら決意新たに

現実を訴え「日本の平和がおかしくなってきた。平和憲法の本質は維持しなければならぬ」と言葉に力を込めた。

慰霊祭を支えてきたが卒寿を越え、体力的に活動が厳しくなってきた。今回を一つの区切りとする

ことも考えたが、「ここで皆さんと会い、力が湧いた。もう少し頑張りたい」と意欲を見せた。

機銃を受けた列車に乗り合わせ、慰霊祭で毎年読経を唱えている茨城県筑西市乙の妙西寺僧侶横井千春さん(85)は周囲の電線を見上げ「70年前は血の海。ここに人間の

はらわたがぶら下がっていた」と証言した。安全保障関連法案などをめぐって現政権の姿勢に憤り「戦争の無益を知らない若い人にも、諦めず戦争の恐ろしさを伝え

ていってほしい」と呼び掛けた。

同じ列車に乗っていた



慰霊碑「平和の礎」の前で読経する横井千春さん 26日午前、下野市小金井のJR小金井駅西口

事件施設 死亡の施設 浮かぶず

宇都宮市内の認可外保育施設「といで」で2014年7月、同市、山口愛美利ちゃん(当時9カ月)が宿泊保育中に死亡した事件をめぐり、施設の小さな保育や運営の実態が浮かび上がっている。愛美利ちゃんの死亡時、施設が「売り」にしていた看護師の常駐や医師との連携はなかった。ホームページ(HP)などでもPRしていた24時間保育も、宇都宮市に「やっていない」と報告。雇っていない

いじめ積み重なり 学校報告書、

岩手県矢巾町の中学2年村松亮君(13)がいじめを苦に自殺したとみられる問題で、いじめの有無を調べていた中学校は26日、1年~2年にかけて村松君へのいじめが6件あり、その積み重ねが自殺の一因になったとの調査報告書をまとめた。学校は、行為があつた当